

★学校教育目標	○しっかり学ぶ子 ○心やさしい子 ○たくましい子	★重点計画の概要 自己肯定感の醸成を図る学校 (1)全児童の命を預かっていることを念頭に置く。 (2)児童の自己肯定感を醸成させることを重視する。 (3)子供を中心に据えた学校教育活動となるような視点を重視する。 (4)日野市第四次学校教育基本構想「学びの変革プロジェクト」の実現を目指す。
★目指す学校像（ビジョン）		
【目指す学校像】	自己肯定感の醸成を図る学校（子供たち全員の居場所と「か・つ・や・く」の場がある学校）	
【目指す児童像】	●すすんで考え自ら学ぼうとする児童（かながえる） ●心身ともに健康な児童（つよい） ●互いを認め合い思いやりのある児童（やさしい） ●粘り強く行動する児童（くじけない）	
【目指す教師像】	●授業改善に努める教員（かながえる） ●毅然とした指導のできる教員（つよい） ●児童に寄り添い良さを伸ばす教員（やさしい） ●課題を組織で解決する教員（くじけない）	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	知識及び技能の確実な習得を図る。	基礎的基本的な知識や技能を身に付け、児童が「できた」「分かった」「役に立った」を実感できるような学習活動を工夫する。	①すべての授業において、めあての提示を徹底し、学習のねらいを明確にした構造的な学習を展開する。また、ねらいが達成できたかどうかのふりかえりを確実に行う。【学びの変革プロジェクト】 ②授業のユニバーサルデザイン化を目指す。特に「視覚化」「焦点化」「共有化」を単元内に意図的に取り入れ、児童にとって分かりやすい授業を創造する。【学びの変革プロジェクト】	4	90%以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。	4	90%以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。	児童が前向きに授業に取り組む、積極的に発言しているように思う。今後今今の状態が続いていくとよい。90%以上の肯定的な回答があるが、残りの児童への支援を忘れずに取り組んでもらいたい。①めあてや振り返りの仕方が形式的な時があるの柔軟性をもたせるとよい。②焦点化として資料を教室のテレビ画面に提示されるが見えづらいので遮光カーテンが欲しい。	自己肯定感を醸成させる場面は多々ありますが、一日の6割を超える授業時間の中で「できた」「分かった」「役に立った」を味わうことは特に重要と考えてきました。ねらいを明確にし、分かりやすい指導を意識した結果、昨年度を上回る95%以上の児童が肯定的な回答をしました。授業改善は今後も重点目標としていきます。
				3	85%以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。	3	85%以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。	2	80%以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。	「教える」学習活動から、児童が主体的、対話的に深く「学び」学習を意図的に取り入れる。	③生活科・総合的な学習の時間（ゆりの木タイム）を中心に、すべての教科において、児童が課題を追究したり、解決したりする活動を意図的に取り入れ、探究的な学びの楽しさを味わわせる。【学びの変革プロジェクト】 ④個人用端末によるインターネット検索とともに、学校図書館の情報機能を活用して、課題を解決する方法を身に付けさせる。【学びの変革プロジェクト】	4	90%以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。	4	90%以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。	成果指標は3ではあるが課題解決能力の高い児童が多いと思う。自ら宿題に取り組んでいる児童も増えてきている。苦手意識の児童への対応が求められる。③生活・総合の学習が探究的な学びにつながっている様子はよくわからない。2年生の大根サラダを頂いて、レシビももらえて嬉しかった。④調べ活動の時には関連図書を用意して、学習に取り組みせていた。	校内研究を通して、探究的に学ぶことの楽しさを児童に味わわせたいと考えてきました。依然約13%の児童が、自ら課題を設定し主体的に解決していく学習方法に苦手意識を持っていることが分かりました。異学年や地域の人材など、関わりをもつ相手への意識を高めるような手立てを講じたいと思います。
				3	85%以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。	3	85%以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。	2	80%以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。		
				1	③④に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	③④に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	多様性を認め、課題を解決したり困難を乗り越えたりする資質を育む。	話し合い活動を通して、対話による課題解決のよさを、児童が実感できるようにする。	⑤月一回程度の学級会を通して、話し合いの仕方、合意形成・意思決定の仕方を身に付けさせる。 ⑥ペア学習、グループ学習、協働学習等の機会を他教科にも広げ、児童が対話によって学習を進めることのよさを味わえるようにする。【学びの変革プロジェクト】	4	90%以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。	4	90%以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。	コロナ禍を経験して対話の大切さを痛感しているため、児童も話し合いを通じて楽しさと必要性を感じてほしい。⑤学級会の頻度がクラスによって差があるようなので揃えて欲しい。話し合いの成果なのか、児童でも問題を話し合っ解決しようとする姿が見られた。⑥話すペアを変化させるようにして欲しい。いつも話す子がいっしょだと子供が話している。	多くの教員が、対話による学習活動を意識してきた結果、昨年度より肯定的な回答が増えました。(89%) 学級会という規模の大きな話し合い活動だけでなく、隣の友達と意見を交わすペア学習等も大切な対話の機会ととらえ、あらゆる場面において、互いの考えを大切にしようとする風土を作っていきます。
				3	85%以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。	3	85%以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。	2	80%以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑤⑥に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	⑤⑥に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	自他の命や人権を大切にしようとする意識を高める。	いじめの早期発見・早期対応を図るとともに、未然防止のための環境整備に努める。	⑦いじめの未然防止のために、日常から児童との円滑な人間関係に努め、教職員や友達に支援要請ができる学級集団の風土作りに努める。 ⑧年間3回のいじめ防止授業やいじめアンケートを確実に実施して、早期発見に努めるとともに、いじめの兆候に対して、学年を核とした組織的な早期対応を行う。	4	90%以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。	4	90%以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。	いじめのない学校はないと思う。いじめをしている側へのケアが大切なのでその児童の環境や心理を受け止めてあげてほしい。⑦いじめの指導等にのみに時間が割かれることのないようにしてほしい。今は指導されている周りの子もつらい気持ちになることも理解してほしい。⑧アンケートがいつも同じ形式のようなので、内容に工夫をして欲しい。	いじめが発生した時の早期発見・早期対応という視点は欠かすことのできないものです。しかし、それに加え、いじめが起きにくい集団を作っていくことも同じように重要であると考えます。教室に居場所がある、活躍の場がある、意見が大事にされるといった学級づくりも同時に進めていきます。
				3	85%以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。	3	85%以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。	2	80%以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑦⑧に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	⑦⑧に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童が安全に気を付けて生活することのできる資質を育む。	全教職員による共通理解のもと、学校生活における規律や生活習慣の徹底や、安全な学校環境を整える。	⑨「日野第五小学校 当たり前のこと10か条」のうち、特に挨拶の励行・安全な歩行・適切な時間管理を指導の重点とし、朝会時、朝の会、帰りの会などの機会に、具体例を挙げて指導する。 ⑩避難訓練や安全指導を「命を守る授業」として位置付け、安全指導日や避難訓練日に、計画に基づいた指導を確実に行う。	4	90%以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。	4	90%以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。	マンモス校ならではの大変さはあると思うが、児童が安全で安心して学べる環境はとても大切なので今後も続けてほしい。登下校の時など子供たちはよく挨拶をする。保護者も挨拶をしてくれるが、保護者の意識がまず変わるといい⑨あたり前10か条のイメージを子供がもてるとよい。⑩避難訓練は静かでキビキビ動いている。訓練の成果が家の生活でも応用できている。	当たり前のことをいい加減にせず徹底することの大切さを指導してきました。特に命に関わる安全指導は、全校共通の指導となるよう生活指導主任が中心になって統一のおこなってきました。避難訓練を真剣に行っているか、という質問に対する児童の回答の割合は、今回の調査で最も高い数値(99%)となりました。
				3	85%以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。	3	85%以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。	2	80%以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑨⑩に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	⑨⑩に対する肯定的な回答が80%未満だった。		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童の自己肯定感を醸成し、互いに尊重し合える心の育成を図る。	日常的教育活動において、一人一人の児童が互いに尊重され、活躍できる場面を創造する。	⑪学校生活全般の場面で、児童の良さを価値付ける。できないことの批判より、努力したことや達成したことへの価値付けを意識する。 ⑫学級や学年、異年齢集団において役割を与え、責任を果たすこと、期待に応えることの心地よさを味わわせる。	4	90%以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。	4	90%以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。	お互いの良さを認め、活躍の場がたくさんあると児童も学校生活が楽しくなると思う。他者に認められ自己肯定感を高めてほしい。⑪先生にも親にも褒められていないと感じている子供もいる。ほめ方は難しい。⑫なかよしタイムが時間が長びかないようにしてあげてほしい。6年生送る会の様子を拝見し、児童の成長を感じられてよかった。	児童は可能性の塊です。その可能性に気付けるよう各学年において活躍の機会を多く取り入れました。今年度は実行委員制度を導入して年間を通じて一人一人に活躍の機会を与えたり、異学年との交流を通して役割を果たすことの心地よさを味わわせたりする学年が増えました。このことも、肯定的な回答が高くなった一因と考えています。
				3	85%以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。	3	85%以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。		
				2	80%以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。	2	80%以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。		
				1	⑪⑫に対する肯定的な回答が80%未満だった。	1	⑪⑫に対する肯定的な回答が80%未満だった。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。